

文教厚生常任委員会行政視察研修報告書

文教厚生常任委員会では、平成 27 年 7 月 7 日～9 日の 3 日間、福岡県宗像市・山口県下関市・福岡県北九州市にて視察をしてまいりました。参加者は、若見孝信委員、大河原千晶委員、岡村浩雅委員、福田克之委員、矢澤功委員及び事務局職員 1 名、そして私、石岡祐二であります。出発前には台風等天候が心配でしたが、予定通りに研修を行うことができました。

茨城空港から出発し、最初の視察先の福岡県宗像市では「小中一貫教育の導入」について、翌日訪問した山口県下関市では「コミュニティ・スクール推進事業の取り組み」について、また福岡県北九州市では「介護支援ボランティア事業」について研修を実施しました。

福岡県宗像市

○小中一貫教育の導入について

7 月 7 日は福岡県宗像市を訪問しました。

宗像市は福岡市と北九州市の間に位置し 3 大学が立地する学術文化住宅都市で、また道の駅むなかたは、リニューアル後売り上げが倍増し全国的にも注目を浴びているとともに、視察後には、宗像・沖ノ島と関連遺跡群は世界遺産登録推薦候補になりました。

宗像市では、小学校 15 校、中学校 7 校が平成 26 年度までにすべての中学校区で小中一貫教育を行うこととされていることから、それらの研究内容と、今後研究が終了しどのように推進されていくか、取り組み状況について研修を行いました。

平成 18 年度から 25 年度までの 8 年間（第 I 期小中一貫教育）は、小中一貫教育に取り組んだ結果、学習規律・学習態度・学力向上・各中学校区における指導方法の一貫、学校における組織体制の確立、家庭・地域との連携等成果が見られるようになってきました。

宗像市（研修風景）



平成 27 年度から 31 年度まで（第Ⅱ期小中一貫教育）は、生きる力としての確かな学力、豊かな心、健やかな体を育む学校力を向上させるため、学校経営の充実を図り、具体的には、学力向上支援教員の配置・学園コーディネーターの配置・福岡県教育委員会への基準外教員配置要望・兼務教員に公用車の一部配置・電子黒板を中心とした ICT 化・ALT の配置に加え、保育所・幼稚園との連携、福岡教育大学との連携を盛り込み、より推進していくとのことです。

地域との関わりについては、学校に自主権・裁量権を与えて子どもを第一に取り組んでいます。また、今後は中学校区に 1 人コーディネーターとして、退職した校長先生を配置していきたいとのことでした。中高一貫教育への取り組みでは、福岡県内 5 校が取り組んでいます。

現在さくら市では、喜連川地区において小中連携は行っていますが、今後小中一貫も視野に入れた際の具体策を学ぶことができました。



山口県下関市

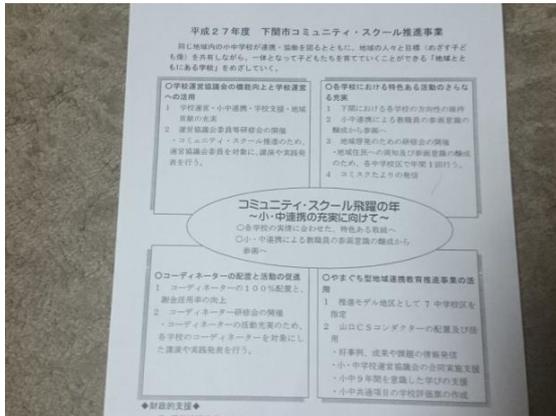
○ コミュニティ・スクール推進事業の取り組みについて

7 月 8 日は山口県下関市を訪問しました。

下関市は本州と九州の結節点で陸・海交通の要衝です。2005 年には中核市となり、下関港国際ターミナルからは韓国、中国への定期便が就航し観光や経済の玄関口となっています。

下関市では、市内全ての小・中学校 74 校がコミュニティ・スクールの指定を受け、各校区の特色を活かした取り組みを行い、平成 26 年度は「全国コミュニティ・スクール研究大会 in 下関」が開催されました。コミュニティ・スクールとは、学校を拠点として学校運営に地域の方々の声を取り入れながら、皆でつながり支えるしくみづくりを行うものです。

下関市（研修風景）



下関市の特徴として、学校運営協議会を設置するだけでなく、学校応援団等を含む実現のための4つの柱「1 学校運営協議会の設置」「2 学校応援団の組織化」「3 小中学校の連携」「4 コーディネーターの配置」を示し総合的に推進しています。特に、地域住民による授業参観実施、人事に対する学校運営協議会の意見反映、教職員による地域住民への講座実施、学校の余裕教室の提供など、地域重視第一の取り組みを行っています。

栃木県では、今年度に小山市が制度を導入していることから、下関市との比較も行い、さくら市においての導入の際に活かしたいと思いました。

下関市



福岡県北九州市

○介護支援ボランティア事業について

7月8日午後は福岡県北九州市を訪問しました。

北九州市は九州初の政令指定都市で世界に誇る環境・産業の技術集積、空港や港湾の都市基盤整備が進んでいます。

北九州市の介護支援ボランティア事業は、介護保険施設等で、ボランティア活動を行った場合に、ポイントを付与し貯まったポイントの換金や寄付ができる事業で、市から委託を受けた社会福祉協議会が運営しています。元々、高齢者の社会参加の意識を高く、「自分のできる範囲で社会貢献をしたい」というところから来ています（高齢者全体の56.7%）。ボランティアに特別な資格はないのですが、登録前に研修受講が必須で、月1回ペースで研修会を実施するとともに、社会福祉協議会や市内の施設と連携し参加者を増やしています。さらに、認知症サポーター養成講座を含めた、スキルアップ研修会も行っています。

今後は、ボランティア会員や登録施設が増えたことによって、双方によるポイント加算の不正防止や対象施設をどこまで拡大するかを制度設計しなくてはならないとのことです。

栃木県では、今年度にも小山市、日光市が事業を導入し、今後大田原市も導入を検討していることから、北九州市との比較も行い、さくら市においての導入の際に活かしたいと思いました。

北九州市（研修風景）



結びに、今回の視察研修を活かし、さくら市においても先進事例・事業を取り入れるところは取り入れ、さらに年内にも栃木県内の先進地に赴き比較検討を行い、より良い市政発展につなげていきたいと思ひます。

以上、報告といたします。